

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201427		
法人名	有限会社 まごころデイサービスセンター		
事業所名	グループホーム隠居の家	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市井内字三番113-2		
自己評価作成日	平成26年 7月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自宅にいるようなゆったりとした生活、時間が送れる様支援にあたっており、出来る限りご本人様の意向に添えるよう、工夫・努力をしている。また自立支援についても本人の些細な思いや望みなどを大切な事として受け止められるように全職員心がけて毎日のケアに努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年 8月 21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、石巻線稲井駅の近くで山と川に挟まれた自然環境の良い場所にある。一般住宅を改装しただけに、狭さは有るが家庭的な雰囲気はそのまま残されている。開設して9年目に入り、地域の知名度も高まり、運営推進会議等を通じた行政、地域の連携による情報の交換等が施設運営に活かされている。看護師の配置と、月2回のかかりつけ医の往診や協力医の連携による健康管理が入居者の安心に繋がっている。目標達成計画の災害対策は、前向きに真摯に取り組む姿勢が評価できる。厚労省の健康づくりの為の睡眠指針2014、睡眠12カ条を掲げて日常の健康管理に取り入れ勉強会をしている。その効果を期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム隠居の家)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議で理念を再確認し「介護理念・心得・言葉使い」など家庭的な雰囲気の中でケアにつなげている。	「泣いたり笑ったり(笑顔)、行ってらっしゃいお帰りのさい(家庭の雰囲気)、自分らしさ(尊厳)、近所付き合い(地域密着)」以上の四つの理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り回覧板のメンバーに入れている。いただき町内の行事や清掃活動に参加しております。また施設行事への参加を促したり、運営推進会議で入居者様に参加、立ち会って頂きながら話し合いを設けている。	町内会の回覧板の行事情報を活用している。地域の一員として花壇の花植え、清掃、お茶飲み、踊り等のボランティアの受入れ、ホームの流しそうめんの行事には地域の人にも参加して頂き、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、地域包括支援センターのご協力を得ながら、実践していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設についての情報を隠居便りにより積極的に公開し、季節により見学に行く場所などの情報等頂いた意見を参考にさせて頂いている。また市役所等から頂いた感染対策や睡眠指針などの説明も行っている。	2ヶ月に1度、年6回開催、地域包括支援職員も4回参加し、町内会行事予定、地域イベント紹介、隠居便りの配布、結核院内感染対策、健康づくりの為に睡眠指針2014の勉強会等、情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な対策等、手引きなどメールなどで常に新しい情報を頂いております。また不明な点については、常に相談させて頂いている。	震災で培われた市との強い絆が継続している。書類上の不明な点等、契約書の、角印丸印の使い分けの現地指導があった。地域包括支援センターからは研修会等の様々な対策や手引きの情報提供が有る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアを工夫することで出来るだけ身体拘束をしないように努めている。また内部研修を行い職員に拘束による弊害などを理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	震災後は治安の悪化でドア内側のチェーンを一時期掛けていたが、現在は日中の玄関の施錠はしていない。内部研修や、外部研修による拘束の弊害を認識させ、ケアを工夫することで身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加、内部研修を行い、何が高齢者虐待に該当するのかを学び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を内部研修にて全職員が共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来所した際や電話にて常に不安・疑問があれば申し出て頂ける様な環境作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にその時々の様子や便りなどを使い入居者様の様子が伝えられるようにしている。またみんなで外出できる公園など紹介して頂いている。	運営推進会議の場や、月1度の支払日には必ず家族と面会し意見の交換をしている。家族の意見として入居前からやっている、リハビリ・訪問マッサージ、エアマットのレンタル等の相談を受けて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも、常に気軽に話し合える環境で、速やかに申し送り、改善を行っている。	毎月の職員会議の他、管理者との話し合いの機会を適宜設けている。入居者のケアについて、服薬の確認方法やレクリエーション等外出支援に関する提案があった。提案事項は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々での面談の際、意見などを確認し、各自が向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて内・外研修を受ける為の確保や、働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同職者との研修や他施設行事参加交流により、サービスの質を向上させていく取り組みとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係の構築を第一として全職員がケアを行っている。また現在の生活の状況を把握し安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時以外にも、来所された時や電話などで気軽にお話しして頂ける様な環境作りをしている。また抱えている悩みや要望に耳を傾け日々のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れて頂くこと、今までの生活の継続を念頭にケアにあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭のおき、まごころを持ち人生に寄り添う気持ちでケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	思い出に残る楽しい行事などを一緒に参加して頂き、出来る限り協力して頂いてる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしている知人・友人・地域との関係が途切れない様、可能な限り関わり合う事が出来る支援をしている。また正月や連休には家族との外出ができるよう支援をしている。	被災により馴染みの場所を失った入居者もあり、細心の注意をして支援している。買物時に以前に住んでいた地区を訪問したり、道の駅は新たな馴染みの場所である。友人の来訪で旧交を温めている光景もあると云う。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の把握をし、職員が中立となり交流が図れる様にしている、利用者同士が協力して行える工作、畑など活動に工夫して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、いつでも来て頂ける様に声掛けを行い他の施設に入られた入居者様も時々電話を掛けてくれる関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者との関わりの中から希望や好きなことこんなことがしたいなど気持ちをくみ取る様に接している、本人に聞けない時は家族から聞いている。	入浴時や居間にいる時の会話からどんなことを望んでいるかを把握する。趣味のちぎり絵や、うた、踊りの好きな入居者は他の人に教えている。外出時の買物などは自分の好きな物を買う本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人と時間をとって改めて生活歴、仕事ぶりなどゆっくり聞いている、またサマリーなども利用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、職員会議や申し送りの話の中から一人一人の体調、性格、出来事など把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをしたり、職員一人一人の声を聞きながら、ケアプランを作成し、モニタリングの時も本人、家族、職員の意見を語ってもらい変更などを行っている。また本人の得意なことややりたい事などを教えて頂き介護計画に反映させております	家族や関係者の意向を聞き、プランを作成し、見直しは3ヶ月ごとに実施する。入居間もない人や個性のある入居者には職員との関わりを密にすることにより、徐々に自信をつけ、過ごせるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し職員が情報を共有している。記録の中からケアプランと違う面がでてくるともう一度ケアプランを見直していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な支援が出来るようにしている訪問看護ステーションによる点滴や歯科医師の訪問など多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて地域の商店、公共機関等を積極的に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月2回の往診があり病院との連携が取れております。また本人、家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族が通院することが困難な場合などは家族に連絡し職員が付き添い通院を行う。	家族付き添いでかかりつけ医を受診する方2名の他、協力医の往診が月2回ある。受診の際はバイタルチェック票の提示や受診結果の報告を受けるなど連携が図られている。処方記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた点は職員皆で共有すると共に看護師は往診時に、担当の医師に報告、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族から様子を聞いたり病院の看護師に現在の状態を情報収集し退院後の生活に支障をきたさないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは実施していないが、家族と重度化に伴い、施設で出来る事などの説明「重度化対応・終末期ケアの対応」を作成し話し合いをしている。	「重度化対応、終末期ケアの対応」、「終末期ケアにおける確認事項」を成文化し、方針が確立した。2年度に及んだ取り組みの目標が達成された。現在は家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の応急手当講習など定期的に各職員が参加しており、急変時等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害ごとのマニュアルを追加し運営推進会議などで説明を行い災害時の避難方法や場所などを明確に示しており、地域の方の意見を取り入れながら(安全な避難場所かなど)助言と協力を頂いています。	避難訓練は年に2回実施している。昨年独自で掲げた災害種別ごとのマニュアル作成の目標計画は達成された。スプリンクラー設置は準備中だが一日も早い設置を望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、何事も気配り日配りをし、誇りを傷つける事のないようにしている。失禁し汚してしまった場合も周囲に気づかれない様トイレ誘導をしたりさり気ないサポートをして自尊心を傷つけないよう配慮している。	下の名前で「さん」を付けて呼びかける。会話では言葉使いに気をつけて、視線を合わせる。失禁した際は、誇りを傷付けないようにそっと声掛けする。隠居便りの掲載写真は本人や家族の了解のもと掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に話しかけたり口数の少ない方にはマッサージをして触れ合うように心がけコミュニケーションを沢山とる事により本人の思いを話せる機会をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のしたい事をできるだけ叶える様にその日の職員の人員配置を考え工夫と努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、自分で洋服を選んでもらったり、散髪、顔の毛を剃ったり身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みをメニューの中に取り入れたり、誕生日には、その人の好きな献立を考えたり行事ごとにバラエティーにとんだメニュー作りをしている、また職員と一緒に手作りおやつを作って食べたり、毎食の味見をして頂いています	市の栄養士と相談し職員が交代で一週間の献立表を作成する。昼食には麺類を取り入れバラエティに富んだメニューである。裏の隠居畑の収穫した野菜が食卓に載る。おやつにはタコ焼きやパンを皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に応じた食事形態にし水分量の少なめの方には好きな飲み物で水分補給ができるように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時就寝時食後の口腔ケアを行い、訪問歯科の検診も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時の排泄の声掛けから始まりおやつ、食事の前後など細かく声掛け誘導を行っている。また排泄記録により排泄の支援をタイミングよく行っている。	排泄パターンを活用し、個別に支援している。自立のリハビリパンツ使用者には声掛け誘導し、出来ることは本人に任せる見守りしている。オムツ使用が2人、ポ-タブルトイレ使用が3人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事に乳製品を出したり排泄表で排便の確認、水分量チェックをしていき午前午後体操などをして腸の運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れたりして温泉気分を味わってもらい気分良く入浴して頂けるよう工夫している。また病院に通院される場合などは入浴を入りたい希望の時間に添うようにしている。	1～2日の周期で入浴の支援をしている。入浴は午前中の時間帯(病院の対応を考え)。好みの入浴剤を入れ温泉気分を満喫している。職員と会話や、鼻歌交じりで入浴を楽しむ、現在は入浴拒否の人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせて休息して頂いたり、夜寝れない方には好きなテレビを時間を問わず観て頂いてから就寝等してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬を把握する為薬の処方箋などをファイルにして閲覧ができるようにし薬の変更があったら申し送り記録に記入、症状の変化は往診時にドクターに報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の洗濯物たたみ、新聞折、畑仕事など出来そうな事や好きな事を見極めながら行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望があれば夕方の散歩や買い物などの外出支援を行っております。また地域のお祭りや演奏会を鑑賞に行ったり、お花見、あやめ祭りなど季節の催し物を見に出かけている。	桜、チューリップ、あやめ等四季折々の花見を楽しんでいる。神社巡り、ふたごの湯、神割崎キャンプ場で昼食を食べるバスハイク等、買物、近隣の散歩、裏の隠居畑のひなたぼっこ等々、年間を通し日常的な外出支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には少額でも管理して頂き、また外出レクなど買い物の際は家族に連絡をとり確認してから施設立て替えなどを行い対応していく支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連帯し、可能な限りやり取りができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	裏庭には日洗浴、畑などできるスペースがあり季節ごとの野菜や山の四季など自然を感じ取れます。また季節のディスプレイを入居者様と職員で共同制作したものをダイニング等に飾りをしたり、場合によりテレビを消し音楽などにして、居心地よく過ごせる工夫・努力をしている。	居室を囲む廊下は回廊型、手狭な感はあるがそれだけに落ち着きもある。手造りのカレンダーや一日のスケジュール、入居者の趣味による繊細なちぎり絵や季節の花が置かれ、家庭的な雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で静かに過ごす方、ダイニングで皆さんと過ごす方、それぞれの思いで過ごせる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月みんなでカレンダーの作成をしている完成したら本人と職員とで各居室に貼り出します。また入所の際なじみの物を持ってきて頂ける様をお願いしている、居室の飾りなど季節感がでる折り紙、塗り絵など作成したものを飾っている	窓のない部屋もあるが、天井から明かりを取り込む配慮がある。使い慣れた馴染みの置物、ちゃぶ台、衣装ケース、写真、塗り絵、ちぎり絵、手造りカレンダー等が飾られて各人各様の落ち着いた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ダイニングには大きめな日めくりカレンダーを掲示しております。また自立して生活が出来るようにトイレ、居室などわかりやすいように表示している。		